

## 徳田の歴史-6

### 貧乏堤

1/1



貧乏堤



北川と屋去りの水門

徳田地区北方を通称:北川と言う名前の川が東西に流れています。

(少し下流域より2級河川の堀切川となります)

徳田地区近辺の北川の幅は約3mです。更にこの川の北方約80m地点に農道を兼ねたような小規模な荒れた堤(土手)が築かれています。

この堤の長さは東西約1km、道幅2.2m、高さ0.8mです。

● この堤を徳田近在の人は“<sup>ピンボウ ツツミ</sup>貧乏堤”と呼んでいます。

どうしてこのような堤が築かれたかの詳細は分かりませんが年輩の人にいろいろと聞いてみますと…下記のような話がありました。

- ①昔(江戸時代後期頃)徳田地区と稲生地区との間で田んぼの境界等の関係で争いが起こりその境界線をはっきりさせるために この堤を築いた。
- ②屋去りの水門近辺で大雨の時等、北川が決壊し土砂が田畑に溢れた。この被害領域を少なくするためこの堤を築いた。…等

● 又どうして“貧乏堤”と呼ぶようになったかは明らかではありませんが…

当時としては立派な堤を築く十分な余裕がなかったのではないか。

今現在この堤を見るとかなり貧弱で“みすぼらしく”見えます。

このような事から次第に“貧乏堤”という言葉を使うようになって行ったのではないかと思います。

※尚この堤の構築以降特に田に関する大きな被害はなく自治会の清掃活動や北川のコンクリート補強又水門は木製→鉄製となりハンドル操作も出来大きく改善されています。

H.A